

## 昭和大学医学部(Ⅱ期) 数学

2020年 3月10日実施

- 1 次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。
- (1)  $xyz$  空間において、原点  $O$  を中心とする半径  $1$  の球面  $S: x^2 + y^2 + z^2 = 1$ 、および  $S$  上の点  $A(0, 0, 1)$  を考える。  $S$  上の  $A$  と異なる点  $P(x_0, y_0, z_0)$  に対して、2点  $A, P$  を通る直線と  $xy$  平面の交点を  $Q$  とする。次の問いに答えよ。
- (1-1)  $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP}$  ( $t$  は実数) とおくと、  $\overrightarrow{OQ}$  を  $\overrightarrow{OP}$ ,  $\overrightarrow{OA}$  および  $t$  を用いて表せ。
- (1-2)  $\overrightarrow{OQ}$  の成分表示を  $x_0, y_0, z_0$  を用いて表せ。
- (1-3) 球面  $S$  と平面  $x = \frac{1}{2}$  の共通部分が表す図形を  $C$  とする。点  $P$  が  $C$  上を動くとき、  $xy$  平面における点  $Q$  の軌跡を求めよ。
- (2)  $xy$  平面において、点  $A(a, 0)$  を中心とする半径  $r$  の円を  $C$  とする。ただし、  $0 < r \leq a$  とする。円  $C$  の周上に、  $y$  座標が正である点  $P$  と、点  $E(a+r, 0)$  をとる。さらに、点  $P$  における円  $C$  の接線と  $y$  軸との交点を  $Q$ 、2点  $E, P$  を通る直線と  $y$  軸との交点を  $R$ 、  $\angle AEP$  を  $\theta$  とする。このとき、3点  $P, Q, R$  を頂点とする  $\triangle PQR$  について、次の問いに答えよ。
- (2-1)  $QP:QR$  の比を求めよ。また、  $\triangle PQR$  が正三角形となる場合の  $\theta$  の値を求めよ。
- (2-2)  $\triangle PQR$  が正三角形となり、さらに頂点の1つが原点と一致する場合の、  $a$  と  $r$  の関係式を求めよ。

【解説】

(1-1)  $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP} \iff \overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OP}$ .

(1-2) 点  $Q$  を  $(x, y, z)$  とおくと、(1-1) より

$$\begin{aligned} (x, y, z) &= (1-t)(0, 0, 1) + t(x_0, y_0, z_0) \\ &= (tx_0, ty_0, 1-t+tz_0). \end{aligned}$$

点  $Q$  は  $xy$  平面上の点なので、  $z=0$  より、

$$1 - (1 - z_0)t = 0.$$

また、点  $P$  は球面  $S$  上にあり、  $A$  と異なるので  $-1 \leq z_0 < 1$  を満たす。したがって、

$$t = \frac{1}{1 - z_0}.$$

このとき、  $x = tx_0 = \frac{x_0}{1 - z_0}$ 、  $y = ty_0 = \frac{y_0}{1 - z_0}$  となるので、

$$\overrightarrow{OQ} = \left( \frac{x_0}{1 - z_0}, \frac{y_0}{1 - z_0}, 0 \right).$$

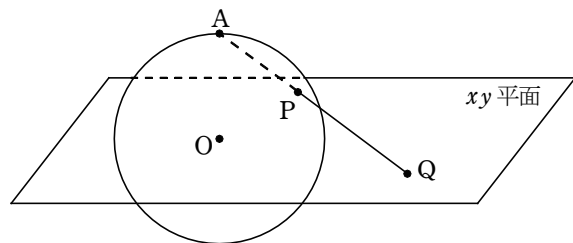
(1-3) 点  $P(x_0, y_0, z_0)$  が円  $C$  上を動くとき、次の式を満たす。

$$x_0^2 + y_0^2 + z_0^2 = 1, \quad x_0 = \frac{1}{2}.$$

すなわち、

$$y_0^2 + z_0^2 = \frac{3}{4}, \quad x_0 = \frac{1}{2}. \quad \dots \textcircled{1}$$

ここで、  $Q(x, y, 0)$  とおくと、(1-2) より、



$$x = \frac{x_0}{1-z_0} = \frac{1}{2(1-z_0)}.$$

明らかに  $x \neq 0$  であり,

$$1-z_0 = \frac{1}{2x} \iff z_0 = 1 - \frac{1}{2x}. \quad \dots \textcircled{2}$$

同様に,

$$y = \frac{y_0}{1-z_0} \iff y_0 = y(1-z_0) = \frac{y}{2x}. \quad \dots \textcircled{3}$$

②, ③を①に代入すると,

$$\left(\frac{y}{2x}\right)^2 + \left(1 - \frac{1}{2x}\right)^2 = \frac{3}{4}.$$

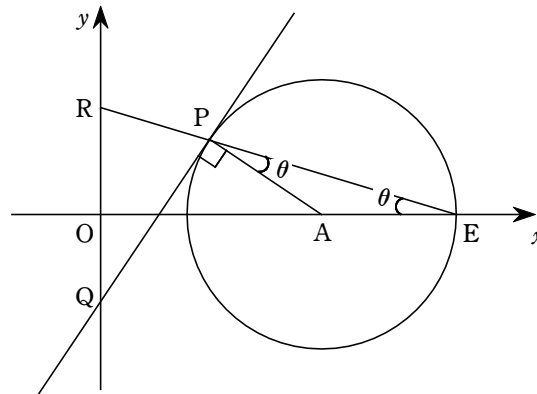
これを整理すると,

$$(x-2)^2 + y^2 = 3.$$

したがって, 点  $Q$  の軌跡は, 円  $(x-2)^2 + y^2 = 3$ . ( $z=0$ )

注: 本問では, 「 $xy$  平面における軌跡を求めよ」と問われているので,  $z=0$  は不問だろう.

(2)



(2-1)  $\triangle AEP$  は二等辺三角形より,  $\angle AEP = \angle APE = \theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とおける.

$\angle APQ = \frac{\pi}{2}$  であるから,

$$\angle QPR = \pi - (\angle APQ + \angle APE) = \frac{\pi}{2} - \theta.$$

また,  $\triangle OER$  は  $\angle EOR = \frac{\pi}{2}$  を満たす直角三角形だから,

$$\angle ORE = \pi - \left(\frac{\pi}{2} + \angle OER\right) = \frac{\pi}{2} - \theta.$$

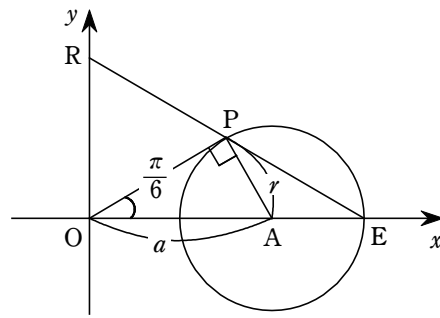
したがって,  $\triangle QPR$  は  $QP = QR$  を満たす二等辺三角形である. ゆえに

$$QP : QR = 1 : 1.$$

また,  $\triangle PQR$  が正三角形となるとき,

$$\angle QPR = \frac{\pi}{2} - \theta = \frac{\pi}{3} \iff \theta = \frac{\pi}{6}.$$

(2-2) 点  $P$  の  $y$  座標は正であるから, 点  $R$  は  $y > 0$  を満たす. したがって, 条件のように原点と一致する点は,  $Q$  に限る.  $Q=O$  のとき, 図は以下ようになる.



$\triangle OPA$  に注目すると,

$$\angle POE = \frac{\pi}{2} - \angle POR = \frac{\pi}{6}.$$

であるから,  $\angle AOP = \frac{\pi}{6}$ ,  $\angle OAP = \frac{\pi}{3}$ ,  $\angle OPA = \frac{\pi}{2}$  の直角三角形である.

よって,  $OA = a$ ,  $AP = r$  より  $a = 2r$ .

2

- (1) 方程式  $4x^4 - 8x^3 + 11x^2 - 8x + 4 = 0$  を解け。  
 (2)  $x^{2020} + x + 1$  を  $x^2 + x + 1$  で割ったときの余りを求めよ。  
 (3) 3次方程式  $x^3 - x^2 - x - 1 = 0$  の3つの解を  $\alpha, \beta, \gamma$  とする。  $\frac{1}{(\alpha-2)(\beta-2)}, \frac{1}{(\beta-2)(\gamma-2)}, \frac{1}{(\gamma-2)(\alpha-2)}$  を解とする3次方程式を求めよ。ただし、 $x^3$  の係数は1とする。

【解説】

(1)  $4x^4 - 8x^3 + 11x^2 - 8x + 4 = 0 \dots \textcircled{1}$

①に  $x=0$  を代入しても成り立たないので、①は  $x=0$  を解に持たない。両辺を  $x^2 (\neq 0)$  で割ると、

$$4x^2 - 8x + 11 - \frac{8}{x} + \frac{4}{x^2} = 0.$$

$$\iff 4\left(x^2 + \frac{1}{x^2}\right) - 8\left(x + \frac{1}{x}\right) + 11 = 0.$$

$$\iff 4\left[\left(x + \frac{1}{x}\right)^2 - 2\right] - 8\left(x + \frac{1}{x}\right) + 11 = 0. \dots \textcircled{2}$$

$x + \frac{1}{x} = t$  とおけば、②は、

$$4(t^2 - 2) - 8t + 11 = 0 \iff 4t^2 - 8t + 3 = 0 \iff (2t - 3)(2t - 1) = 0.$$

したがって、①の解は、

$$x + \frac{1}{x} = \frac{3}{2} \text{ または } x + \frac{1}{x} = \frac{1}{2}$$

の解である。

$$x + \frac{1}{x} = \frac{3}{2} \iff 2x^2 - 3x + 2 = 0 \iff x = \frac{3 \pm \sqrt{7}i}{4}.$$

$$x + \frac{1}{x} = \frac{1}{2} \iff 2x^2 - x + 2 = 0 \iff x = \frac{1 \pm \sqrt{15}i}{4}.$$

したがって、①の4つの解は、 $x = \frac{3 \pm \sqrt{7}i}{4}, \frac{1 \pm \sqrt{15}i}{4}$ 。

【参考】 $x^2$  で割らずに、そのまま因数分解してもよい。

$$4x^4 - 8x^3 + 11x^2 - 8x + 4 = 0$$

$$\iff 4(x^4 + 1) - 8(x^3 + x) + 11x^2 = 0$$

$$\iff 4\{(x^2 + 1)^2 - 2x^2\} - 8x(x^2 + 1) + 11x^2 = 0$$

$$\iff 4(x^2 + 1)^2 - 8x(x^2 + 1) + 3x^2 = 0$$

$$\iff \{2(x^2 + 1) - 3x\}\{2(x^2 + 1) - x\} = 0$$

$$\iff (2x^2 - 3x + 2)(2x^2 - x + 2) = 0$$

ゆえに、 $2x^2 - 3x + 2 = 0$  または  $2x^2 - x + 2 = 0$  の解を求めればよい。

- (2)  $f(x) = x^{2020} + x + 1$  とおく。また、 $x^2 + x + 1 = 0$  の解の一つを  $x = \omega$  とおくと、

$$\omega^2 + \omega + 1 = 0, \omega^3 = 1$$

を満たす。ここで、 $f(\omega)$  の値を求めると、

$$f(\omega) = \omega^{2020} + \omega + 1 = (\omega^3)^{673} \cdot \omega + \omega + 1 = 2\omega + 1. \dots \textcircled{1}$$

また、 $x$  の整式  $f(x)$  を  $x^2 + x + 1$  で割ったときの商を  $Q(x)$ 、余りを  $px + q$  とおくと、

$$f(x) = (x^2 + x + 1)Q(x) + px + q.$$

ただし、 $p, q$  は実数である。ここで、 $\omega^2 + \omega + 1 = 0$  を用いると、

$$f(\omega) = (\omega^2 + \omega + 1)Q(\omega) + p\omega + q = p\omega + q. \dots \textcircled{2}$$

①, ②より、

$$p\omega + q = 2\omega + 1 \iff (p-2)\omega = 1 - q. \quad \dots \textcircled{3}$$

$p \neq 2$  と仮定すると、 $\textcircled{3}$  より  $\omega = \frac{1-q}{p-2}$  となるが、 $\omega$  は虚数であり、 $p, q$  は実数なので、この等式は成り立たない。

したがって、 $p=2$  であり、このとき  $\textcircled{3}$  より  $q=1$ 。したがって  $f(x)$  を  $x^2+x+1$  で割った余りは  $2x+1$ 。

(3) 3次方程式  $x^3 - x^2 - x - 1 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$  の3つの解が  $\alpha, \beta, \gamma$  であるから、 $x$  についての恒等式

$$x^3 - x^2 - x - 1 = (x-\alpha)(x-\beta)(x-\gamma) \quad \dots \textcircled{2}$$

を得る。②に  $x=2$  を代入すると、

$$2^3 - 2^2 - 2 - 1 = (2-\alpha)(2-\beta)(2-\gamma).$$

$$\iff (2-\alpha)(2-\beta)(2-\gamma) = 1. \quad \dots \textcircled{3}$$

①は  $x=2$  を解に持たないので、 $\alpha-2 \neq 0, \beta-2 \neq 0, \gamma-2 \neq 0$  であり、③から

$$\frac{1}{(2-\alpha)(2-\beta)} = 2-\gamma, \quad \frac{1}{(2-\beta)(2-\gamma)} = 2-\alpha, \quad \frac{1}{(2-\gamma)(2-\alpha)} = 2-\beta.$$

つまり、 $x=2-\alpha, 2-\beta, 2-\gamma$  を解に持ち  $x^3$  の係数が1であるような3次方程式を求めればよい。  $\dots (*)$

方程式①において、解と係数の関係から、

$$\alpha + \beta + \gamma = 1, \quad \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = -1, \quad \alpha\beta\gamma = 1.$$

また、求める3次方程式は、

$$\{x-(2-\alpha)\}\{x-(2-\beta)\}\{x-(2-\gamma)\} = 0$$

$$\iff x^3 - \{(2-\alpha) + (2-\beta) + (2-\gamma)\}x^2 + \{(2-\alpha)(2-\beta) + (2-\beta)(2-\gamma) + (2-\gamma)(2-\alpha)\}x - (2-\alpha)(2-\beta)(2-\gamma) = 0. \quad \dots \textcircled{4}$$

ここで、

$$(2-\alpha) + (2-\beta) + (2-\gamma) = 6 - (\alpha + \beta + \gamma) = 5.$$

$$(2-\alpha)(2-\beta) + (2-\beta)(2-\gamma) + (2-\gamma)(2-\alpha) = 12 - 4(\alpha + \beta + \gamma) + (\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha) = 12 - 4 + (-1) = 7.$$

$$(2-\alpha)(2-\beta)(2-\gamma) = 1.$$

であるから、④より求める方程式は、

$$x^3 - 5x^2 + 7x - 1 = 0.$$

**【別解(\*)以降】**

①が  $x=\alpha, \beta, \gamma$  を解に持つとき、 $X=2-\alpha, 2-\beta, 2-\gamma$  を解に持つ方程式を作る。このとき、

$$X = 2 - x \iff x = 2 - X.$$

これを①に代入すると、

$$(2-X)^3 - (2-X)^2 - (2-X) - 1 = 0.$$

$$\iff X^3 - 5X^2 + 7X - 1 = 0.$$

これは、 $X=2-\alpha, 2-\beta, 2-\gamma$ 、すなわち、 $\frac{1}{(2-\alpha)(2-\beta)}, \frac{1}{(2-\beta)(2-\gamma)}, \frac{1}{(2-\gamma)(2-\alpha)}$  を解に持つ方程式で

ある。したがって、求める方程式は

$$x^3 - 5x^2 + 7x - 1 = 0.$$

3 次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみ解答欄に記入せよ。

- (1)  $\sin^3\theta + \cos^3\theta = \frac{11}{16}$  ( $90^\circ < \theta < 180^\circ$ ) のとき、 $\sin\theta$  および  $\cos\theta$  の値を求めよ。
- (2) 座標平面上に2点  $A(-2, 0)$ ,  $B(2, 0)$  がある。円  $(x-4)^2 + (y-3)^2 = 4$  上に点  $P$  をとって、 $\overline{AP}^2 + \overline{BP}^2$  を最小にするような点  $P$  の座標を求めよ。
- (3) 1 から 55 までの整数のどれか1つを同じ大きさのカードに書いて、1 を書いたカードを1枚、2 を書いたカードを2枚、以下同様に 55 を書いたカードを 55 枚作り、これらを箱に入れる。箱の中をよく混ぜてから1枚のカードを取り出し、それに書いてある数を  $X$  とする。
- (3-1)  $X = 28$  となる確率を求めよ。
- (3-2)  $X$  の期待値 (平均値) を求めよ。

【解説】

(1) 与式より

$$(\sin\theta + \cos\theta)(\sin^2\theta - \sin\theta\cos\theta + \cos^2\theta) = \frac{11}{16}$$

$\sin\theta + \cos\theta = t$  とおくと、 $\sin\theta\cos\theta = \frac{t^2-1}{2}$  なので

$$t\left(1 - \frac{t^2-1}{2}\right) = \frac{11}{16} \iff 8t^3 - 24t + 11 = 0 \iff (2t-1)(4t^2 + 2t - 11) = 0$$

$$\iff t = \frac{1}{2}, \frac{-1 \pm 3\sqrt{5}}{4}$$

$t = \sin\theta + \cos\theta = \sqrt{2}\sin(\theta + 45^\circ)$ ,  $90^\circ < \theta < 180^\circ$  より、 $-1 < t < 1$  なので、 $t = \frac{1}{2}$

したがって、 $\sin\theta + \cos\theta = \frac{1}{2}$ ,  $\sin\theta\cos\theta = -\frac{3}{8}$  となるので、 $\sin\theta$ ,  $\cos\theta$  は  $s$  の2次方程式

$$s^2 - \frac{1}{2}s - \frac{3}{8} = 0 \iff 8s^2 - 4s - 3 = 0$$

の2つの実数解である。

よって、 $s = \frac{1 \pm \sqrt{7}}{4}$  より、 $90^\circ < \theta < 180^\circ$  と併せて

$$\sin\theta = \frac{1 + \sqrt{7}}{4}, \quad \cos\theta = \frac{1 - \sqrt{7}}{4}.$$

(2) 中線定理より

$$\overline{AP}^2 + \overline{BP}^2 = 2(\overline{OA}^2 + \overline{OP}^2) = 2(4 + \overline{OP}^2)$$

したがって、 $\overline{OP}$  が最小値となる点  $P$  の座標を考えればよい。

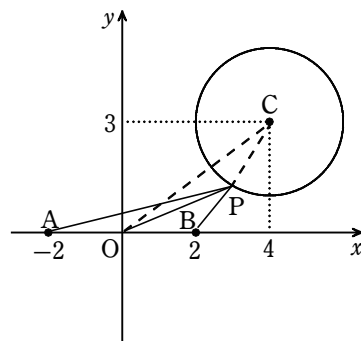
円の中心を  $C$  とすると

$$\overline{OP} \geq \overline{OC} - \overline{CP} = 5 - 2 = 3$$

となるので、 $\overline{OP} = 3$ , すなわち、 $O, P, C$  がこの順に一直線上に並ぶとき、 $\overline{OP}$  は最小となる。

よって、このとき

$$\overline{OP} = \frac{3}{5}\overline{OC} = \left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right) \quad \therefore P\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right).$$



【参考】

円上の点  $P$  を  $x = 4 + 2\cos\theta$ ,  $y = 3 + 2\sin\theta$  ( $0 \leq \theta < 2\pi$ ) と媒介変数表示して、 $\overline{AP}^2 + \overline{BP}^2$  を  $\theta$  の関数として扱ってもよい。

(3)

(3-1) カードの枚数は、全部で

$$1+2+3+\cdots+55=\frac{55(1+55)}{2} \text{ (枚)}$$

であり、28 と書かれたカードは全部で 28 枚あるので、求める確率  $P(X=28)$  は、

$$P(X=28)=\frac{28}{\frac{55(1+55)}{2}}=\frac{1}{55}.$$

(3-2)

$X=k$  ( $k=1, 2, \dots, 55$ ) となる確率  $P(X=k)$  は、

$$P(X=k)=\frac{k}{1+2+\cdots+55}=\frac{k}{\frac{55(1+55)}{2}}=\frac{k}{55 \cdot 28}$$

よって、求める  $X$  の期待値  $E(X)$  は

$$E(X)=\sum_{k=1}^{55} k \cdot P(X=k)=\sum_{k=1}^{55} k \cdot \frac{k}{55 \cdot 28}=\frac{1}{55 \cdot 28} \sum_{k=1}^{55} k^2=\frac{1}{55 \cdot 28} \cdot \frac{55 \cdot 56 \cdot 111}{6}=\frac{111}{3}=37.$$

4 次の各問いに答えよ。ただし、(1)、(2)は結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1)  $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 5x}{1 - \cos x}$  を求めよ。  
 (2) 半径3の球に内接する直円柱の体積の最大値を求めよ。  
 (3)  $xy$  平面上で  $x \geq 0, y \leq 0$  のとき

$$\int_y^x (1 - |t|) dt \geq 0$$

を満たす点  $(x, y)$  の存在する部分を図示せよ。

【解説】

(1) 
$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^5 5x}{1 - \cos x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\frac{\sin^5 5x}{x^2}}{\frac{1 - \cos x}{x^2}} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\left(\frac{\sin 5x}{5x}\right)^2 \cdot 25}{\frac{1 - \cos x}{x^2}} = \frac{1 \cdot 25}{\frac{1}{2}} = 50.$$

- (2) 球の中心から直円柱の底面に下ろした垂線の長さを  $x$  ( $0 < x < 3$ ) とすると、底面の半径は、三平方の定理より

$$\sqrt{3^2 - x^2} = \sqrt{9 - x^2}$$

したがって、直円柱の体積  $V(x)$  は

$$V(x) = \pi(\sqrt{9 - x^2})^2 \cdot 2x = 2\pi(9x - x^3)$$

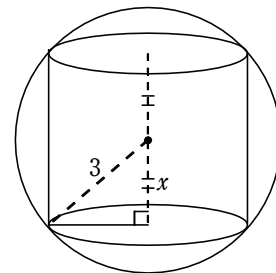
であり、

$$V'(x) = 2\pi(9 - 3x^2) = 6\pi(\sqrt{3} + x)(\sqrt{3} - x)$$

$x$	(0)		$\sqrt{3}$		(3)
$V'(x)$		+	0	-	
$V(x)$		↗		↘	

よって、増減表より、求める最大値は  $x = \sqrt{3}$  のときで

$$V(\sqrt{3}) = 12\sqrt{3}\pi.$$



【別解】

底面の半径を  $y$  ( $0 < y < 3$ ) とおくと、直円柱の高さは、三平方の定理より

$$2\sqrt{3^2 - y^2} = 2\sqrt{9 - y^2}$$

したがって、直円柱の体積  $W(y)$  は

$$W(y) = \pi y^2 \cdot 2\sqrt{9 - y^2} = 2\pi\sqrt{9y^4 - y^6} = 2\pi\sqrt{9t^2 - t^3}$$

$$(y^2 = t, 0 < t < 9)$$

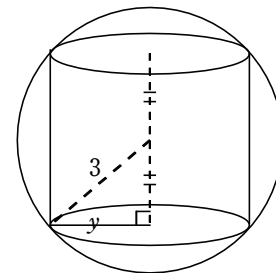
$f(t) = 9t^2 - t^3$  とおくと

$$f'(t) = 18t - 3t^2 = 3t(6 - t)$$

$t$	(0)		6		(9)
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		↗		↘	

よって、増減表より、 $f(t)$ , すなわち、 $W(y)$  の最大値は  $t = 6 \Leftrightarrow y = \sqrt{6}$  のときで

$$W(\sqrt{6}) = 2\pi\sqrt{f(6)} = 12\sqrt{3}\pi.$$



【参考】

$$W(y) = 2\pi\sqrt{y^4(9 - y^2)}$$

ここで、 $y^2 > 0, 9 - y^2 > 0$  であるから、相加平均と相乗平均の関係により

$$\frac{y^2 + y^2 + 2(9 - y^2)}{3} \geq \sqrt[3]{y^2 \cdot y^2 \cdot 2(9 - y^2)}$$



$$\Leftrightarrow y^4(9-y^2) \leq \frac{6^3}{2} = 108.$$

したがって、

$$W(y) \leq 2\pi \cdot \sqrt{108} = 12\sqrt{3}\pi.$$

等号が成り立つのは、

$$y^2 = 2(9-y^2) \Leftrightarrow y^2 = 6$$

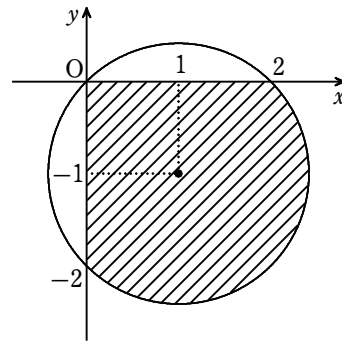
であるから、 $y = \sqrt{6}$  のときに  $W(y)$  の最大値は  $12\sqrt{3}\pi$ 。

$$(3) \quad \int_y^x (1-|t|) dt = \int_y^0 (1+t) dt + \int_0^x (1-t) dt = \left[ t + \frac{t^2}{2} \right]_y^0 + \left[ t - \frac{t^2}{2} \right]_0^x = -y - \frac{y^2}{2} + x - \frac{x^2}{2}.$$

$$\int_y^x (1-|t|) dt \geq 0 \text{ のとき}$$

$$-y - \frac{y^2}{2} + x - \frac{x^2}{2} \geq 0 \quad \therefore (x-1)^2 + (y+1)^2 \leq 2.$$

よって、点  $(x, y)$  の存在する部分を図示すると、右図の斜線部分となる。ただし、境界を含む。



**講評**

**1** (標準)

(1) は空間の軌跡に関する典型問題であった。極力落としたい。 (2) は図形的な考察を適切にできるかが問われた内容であった。最低でも (2-1) をとっていきいたい。

**2** (やや易)

いずれも典型問題であった。 (3) がやや計算量が多くなるので、工夫して計算していきいたいところである。

**3** (やや易)

いずれも典型問題であった。 (2) は中線定理が利用できるると計算量をぐっと減らせ、周りに差がつけられるだろう。様々な手法で解くことができる問題なので、解法の実験が重要な問題であったと言える。

**4** (やや易)

いずれも典型問題であった。丁寧に計算を進め、できればどれも落としたい。

ほとんど典型問題であり、点差がつく良い出題であった。他の科目にもよるがボーダーは 65% 前後であろう。

**メルマガ無料登録で全教科配信！** 本解答速報の内容に関するお問合せは YMS ☎03-3370-0410 まで

☎ 03-3370-0410

受付時間 8~20時 土日祝可  
<https://yms.ne.jp/>  
 東京都渋谷区代々木 1-37-14



☎ 0120-146-156

携帯からOK 受付時間 9~21時 土日祝可  
<https://www.mebio.co.jp/>  
 大阪府中央区石町2-3-12ベルヴォア天満橋